



タイは「世界一不平等な国」 「クロントイ・スラム」から貧困を考える

やぎさわ かつまさ
八木沢 克昌

●公益社団法人シャンティ国際ボランティア会 アジア地域ディレクター

2018年にスイスの国際金融機関クレディ・スイスが発表した統計は、世界に衝撃を与えました。タイは人口の1パーセントが66.9パーセントの富を所有する「世界一不平等な国」になってしまいました。

タイの豊かさの原点が、日本とは大きく異なると知ったのは、2020年の3月の後半。タイでも度重なる事実の誤認と誤った情報発信が余計な混乱を招いていると政府は非難を浴びていました。東京では、安倍首相が根拠なき説明を繰り返していました。未曾有のウイルスに対して両国の政府関係者も経験がなかったのだと仕方がないと思います。

6月9日現在のタイの新規感染者は、世界のなかで81位。最近は、1週間のタイ国内では新規の感染者は出ていない。これまでの感染者は3,112人。死者は58人。日本は、ずっと上位でしたが、今では44位。感染者は17,103人。死者は914人。

今年、私とタイとの関りも40年目となりました。折角の機会なので、ここクロントイ・スラムから「スラム」「貧困問題」「移民問題」を考えてみたいと思います。

タイ語「スラム」の定義

スラム (Slum) とは、国連の定義によると「人口が密集し、老朽化し、衛生、健康や安全、生活環境に問題がある建物、建物群、または地域」とされています。スラムの定義は、時代と国や地域、行政機関によっても異なります。

タイのバンコク都庁 (MBA) のコミュニティ開発局によるスラムの定義は、「人口密集コミュ

ニティ」(チュムチョン・エーアット)。1ライ (1,600㎡) に密集して暮らし不衛生、居住環境が劣悪で15世帯以上が暮らす地区としています。さらにコミュニティを①郊外コミュニティ、②分譲住宅地区、③公社住宅地区、④都市コミュニティと分類しています。

こうした都市の低所得者が多く暮らすコミュニティ全般を広義の「スラム」と定義した場合には、バンコクのスラムは、2,070ヶ所、2,090,529人 (バンコク都庁コミュニティ開発局2019年1月) となります。バンコク都庁が定義する狭義のスラムの「人口密集コミュニティ」は、662ヶ所、685,240人。スラム研究者やスラム支援の団体の間では、広義のスラム2,070ヶ所、2,090,529人の数字が広く認められています。

バンコク都庁の統計等では、バンコクのスラムは、1985年に943ヶ所、965,000人。1996年に1,246ヶ所、1,247,200人。2006年に1,774ヶ所、1,806,000人と年々増加傾向にあります。バンコクの人口に占める割合も20パーセントから30パーセント前後を占めています。実にバンコクの人口の約5人に1人がスラムに暮らしていることとなります。

「クロントイ・スラム」とは

クロントイ・スラムは、人口約10万人が暮らすバンコク最大のスラムです。シャンティ国際ボランティア会やドゥアン・プラティープ財団などが40年以上にわたり教育等の活動を支援しています。

クロントイ・スラムは、チャオプラヤー川沿い



運河沿いのスラム（クロントイ・スラム）

にあるクロントイ港に隣接し43の地区から形成されています。面積は、2,357ライ。土地の所有者は、タイ政府の港湾局です。現在、この港湾局の所有する26地区の約6万人に再開発計画に伴う立退き問題が浮上しています。

スラムの住民の多くは、地方農村から仕事を求めて定住した出稼ぎ労働者です。不安定な日雇いの荷役等の港湾、建設現場、輸送、市場、屋台、露天、行商、清掃、警備員、タクシーの運転手等です。タイ社会の生活インフラを低賃金労働者として支えています。

スラムの住民は、貧困、居住環境、居住権、教育、収入と経済、健康、火事、麻薬問題など様々な課題に直面しています。スラムに住んでいるだけで、子どもが虐められたり、就職差別にあたりもしています。

クロントイ・スラムの住民は、劣悪な居住環境、麻薬の横行等の社会問題を反映し、現在もタイ社会からの差別と偏見にも直面しているのが現実です。

移民労働者問題

クロントイ・スラムでも近年カンボジア等からの移民労働者が増えています。地区によっては、住民の約1割を占めるほどです。港の荷役や建設現場、清掃やメイドの仕事に就いています。スラムも国境を超えて形成される時代となっています。

タイ全体で移民労働者は、陸続きの隣国のミャンマーから300万人、カンボジアから130万人、ラオスから60万人と推定されています。仕事はタイ人が嫌がる3K労働の港湾や建設現場、農業、漁

業、海鮮産業、生鮮市場、さらに日本人が利用するメイド、清掃、ホテル、レストラン、居酒屋等と多岐に渡っています。

タイでは深刻な少子高齢化により労働者が不足し、隣国では農業以外に産業も乏しいことから、隣国の多くの労働者が仕事を求めて国境を越えてやってきます。タイの産業や経済は移民労働者を抜きには成り立たなくなっています。タイと隣国が国境を越えて相互に依存する関係となっています。

タイに暮らす日本人にとっても無意識のうちに移民労働者が建設に関わったショッピングセンター、コンドミニアムやホテルを利用し、タイ料理のエビや魚等も移民労働者を抜きに食べられない時代となっています。

今、タイに暮らす日本人にとってもタイの生活インフラを支えるスラム、そして、隣人となっている移民労働者の存在や生活を少しでも知ることでも大切な時代になっているのではと思います。

どうなるタイと日本と世界へ

タイのこれからをどのように予測したら良いのか。正直なところ本当は分かりません。リーダーなき国際社会をどう乗り切っていくのか。しかも世界は中国と反中国へと完全に移行していくと思います。

このままだと1か月、3か月後のタイと日本の関係も想像が出来ないと思います。「暫く、暫く、暫く」思考を停止する。本当は、「6か月、10か月」と思考を止めて、これからの日本やタイを考えたらいいのだと思います。